

MVスター（MVS - MU）タイプ

御 取 扱 説 明 書

1．定格仕様

形 式	M V S - M U
可変タップ値	5 0 % 6 5 % 1 0 0 %
始動時間定格	3 0 秒
絶縁種別	A 種

定格電圧・容量・定格電流は試験成績書を参照して下さい。

2．関係図面

現品に図面が添付されていますので、図面通り正しく接続して下さい。

3．点 検

3-1. M V S - M U タイプは、コイル本体が制御パネルに取付られて梱包されています。

3-2. 着荷後、直ちに仕様（形式・電圧・容量）及び外観（器具等の破損・差し込み等の緩み）を検査して下さい。

3-3. すべての組立、配線が完了致しましたら、次の項目を確認して下さい。

イ．接続線の太さ	ロ．接続部の締付
ハ．動作確認	ニ．出力電圧測定

尚、テストの際 M V スターコイルの励磁電流が定格電流の約 2 0 % 程流れます。

4．動 作

4-1. 制御回路端子台番号 1・2 に A C 2 0 0 V を供給すると、M V スターのシステムがスタートします。制御電圧が供給されると、電磁接触器（ 6 ）が入り次に（ 4 2 - 1 ）が入ります。

この状態が初期始動でタイマー（ 2 - 1 ）の設定時間 4 秒間続きます。

この時のタップ電圧は、 5 0 % となります。

4-2. 次に（ 4 2 - 2 ）が投入されますと加速状態になり、この時タップ電圧は、 6 5 % となります。

4-3. 次にタイマー（ 2 - 2 ）の設定時間後（ 6 ）が開き、タイマー（ 2 - 3 ）設定時間（ 0 . 3 秒）後に（ 5 2 ）が投入され、（ 4 2 - 2 ）\（ 4 2 - 1 ）が開き、運転状態となります。この時タップ電圧は、 1 0 0 % となります。

これらの動作は、すべてタイマーにより自動的に行われます。

4-4. 停 止

M V スターの制御回路電圧を O F F にすることにより停止します。

1．定格仕様

形 式	M V S - M U
可変タップ値	5 0 % 6 5 % 1 0 0 %
始動時間定格	3 0 秒
絶縁種別	A 種

定格電圧・容量・定格電流は試験成績書を参照して下さい。

2．関係図面

現品に図面が添付されていますので、図面通り正しく接続して下さい。

3．点 検

3-1. M V S - M U タイプは、コイル本体が制御パネルに取付られて梱包されています。

3-2. 着荷後、直ちに仕様（形式・電圧・容量）及び外観（器具等の破損・差し込み等の緩み）を検査して下さい。

3-3. すべての組立、配線が完了致しましたら、次の項目を確認して下さい。

イ．接続線の太さ	ロ．接続部の締付
ハ．動作確認	ニ．出力電圧測定

尚、テストの際 M V スターコイルの励磁電流が定格電流の約 2 0 % 程流れます。

4．動 作

4-1. 制御回路端子台番号 1・2 に A C 1 0 0 V を供給すると、M V スターのシステムがスタートします。制御電圧が供給されると、電磁接触器（ 6 ）が入り次に（ 4 2 - 1 ）が入ります。

この状態が初期始動でタイマー（ 2 - 1 ）の設定時間 4 秒間続きます。

この時のタップ電圧は、 5 0 % となります。

4-2. 次に（ 4 2 - 2 ）が投入されますと加速状態になり、この時タップ電圧は、 6 5 % となります。

4-3. 次にタイマー（ 2 - 2 ）の設定時間後（ 6 ）が開き、タイマー（ 2 - 3 ）設定時間（ 0 . 3 秒）後に（ 5 2 ）が投入され、（ 4 2 - 2 ）\（ 4 2 - 1 ）が開き、運転状態となります。この時タップ電圧は、 1 0 0 % となります。

これらの動作は、すべてタイマーにより自動的に行われます。

4-4. 停 止

M V スターの制御回路電圧を O F F にすることにより停止します。

5．タイマー調整

5-1.タイマー（2 - 1）は初期始動時間用です。出荷時は4秒にセットされています。再設定はしないで下さい。

5-2.タイマー（2 - 2）は加速時間用です。モータの始動時間（全速に達し、始動電流が減衰するまでの時間）を測定し、それより2～3秒長く調整して下さい。
（出荷時10秒セット）

5-3.タイマー（2 - 3）は切換タイミング用です。出荷時は0.3秒にセットされています。再設定はしないで下さい。

6．MVスターコイル

6-1.可変タップ値

MVスターコイル本体には50%の1タップが引出されています。

50%に接続した場合、タップ電圧は
50% 65% 100%と変化します。

6-2.始動時間定格

MVスターコイルの始動時間定格は30秒です。

連続して始動する際は始動時間の合計が30秒を越えない様注意して下さい。

6-3.休止時間

連続して始動し始動時間の合計が30秒を越える場合は、40分以上休止してから再始動して下さい。

特に試運転の際は御注意下さい。

7．保守点検

保守点検は必要に応じて必ず行って下さい。特に高温多湿の場所、ちり、ほこりの多い場所での御使用の場合、たびたび過負荷運転のある場合、極端に始動頻度が多い負荷、インチング運転をした時、その状況に応じて点検して下さい。

ちり、ほこりの除去

マグネットスイッチの磨耗の点検、掃除

各部ネジ、ボルトの緩みの増し締め

異常高温による変色等の点検

動作確認

以 上